

人とのつながりで生き方が変わりました

歌謡と踊りの祭典 実行委員長

清水田 ノブ さん

シミズダ・ノブ 69歳 〓五百森〓



昭和19年生まれ。約10年前に玉山村から西根町に移り住む。「市歌謡同好会」の会長や「唄っこ踊りっこお楽しみ一座」の座長などを務め、芸能文化活動に積極的に取り組む。かに座のB型

「歌や踊りを皆さんに楽しんでもらおうと同時に、ボランティアにならざる活動は今後も続けたいです」と語るのは、昨年11月23日に大更公民館で、「台風18号水害被災地支援チャリティー歌謡と踊りの祭典」を開催した同実行委員会委員長の清水田ノブさん。

この祭典は、24年度に初めて行い、今回が2回目。開催の経緯を伺うと、「東日本大震災の直後、沿岸から市内に避難してきた皆さんに、慰問公演をする機会がありました。その際に、あるおばあちゃんが、涙を流しながら公演を見てくださり、その後、震災時のお話を聞いて、生き方が変わりました。何かしなければと思い立ち、チャリティー活動として始めたのがきっかけです」と、当時を振り



多くの来場者でにぎわう歌謡と踊りの祭典(11月23日)

返ります。

「祭典を見てくださる方、支えてくださる方がいるからこそ活動ですので、本当に皆さんに感謝しています。音響の知識を生かして手助けしてくれる夫の協力もありがたいです」と、支援の輪を実感します。

次回の予定について伺うと、「祭典はもちろん続きたいです。そして、内容もよりよいものにしていきたいですね。興味を持った方は、ぜひいらしてください」と、活動のさらなる充実を目指し、目を輝かせました。

今月の表紙 ビーフシチューおいしいね

いわて短角和牛いい肉の日給食が、11月から12月にかけて、市内の小・中学校で行われました。

この給食は、「いわて短角和牛いい肉の日」の11月29日に合わせ、子どもたちに地元食材を味わってもらおうと、いわて短角和牛の産地市町で開催。安代小学校では、12月9日の給食にビーフシチューが出され、子どもたちは、おいしそうに牛肉を頬張っていました。



配膳時間も給食の魅力のひとつです

■編集後記

新年明けましておめでとうございます。ことしも「広報はちまんだい」をよろしく願います▼本格的なウィンタースポーツの季節に突入しており、市内では、多くの大会が開催される予定です。私はこの係になってから、間近で大会を見るようになりましたが、どの競技も迫力があり、熱戦が繰り広げられています。皆さんも一度会場に足を運び、観戦されてはいかがでしょうか？ (佐々木)